

行政視察レポート

全国には、他の自治体とは異なった特色ある施策を実施し、大変な成果を挙げて住民に喜ばれている市町村が数多くあります。私たち市議会議員は、これらの先進市を視察し、優れた施策を市政に反映し、さらに住みよい「水と緑の住宅都市・狛江」の実現を目指しています。

今回、平成16年に実施した各常任委員会の視察の一部をまとめましたので、ここに報告いたします。

中学校給食について

武生市

金沢市

平成16年10月19日(火)～20日(水)

狛江市の小・中学校も少子化の影響を受け児童・生徒数が減少し、1学年1学級のクラス編制を余儀なくされる状況があらわれている。質の高い教育の推進や経営効率を考慮すれば、一定の児童・生徒数を擁する学校規模が必要となる。さらに校舎の老朽化や耐震性、学校を市内にどのよう適正配置するかを総合的に考える必要も生じてきている。

【武生市】

武生市の「スクールランチシステム」は、共同調理場プラス自校調理場、業者委託方式、家庭弁当との併用選択制のもと、ふれあいルームを設置し、1週間交代で使用する。教室での給食としてはランチボックスメニューを用意し、生徒にカードを持たせ、校内IT端末を利用し給食予約ができる等の特徴があった。視察に当たった武生第二中学校は、平成16年4月1日現在の生徒数は490人、配膳室を含む「ふれあいルーム」は388㎡、食料費のみは1食250円だが、業務委託費等を含めると1食560円を超えるとの説明があった。

総務文教常任委員会

この統廃合の中で、新設の校舎のあり方と同時に給食システム、給食施設をどうすべきかが重要課題になっている。社会や食生活が多様化し、給食を希望する家庭がある一方で弁当を希望する家庭があり、その給食もセンター方式、自校方式、公設民営、給食・弁当併用等さまざまな運営方式がある。

担当委員会としてはこうした市の置かれている状況を考慮し、以下の市を視察した。

【金沢市】

金沢市では、8つの中学校の給食を賄う共同調理場を視察した。北部共同調理場と呼ばれる施設で、1日6000食の調理能力を備えており、45万人を超える人口を持つ大規模市ならではの施設である。

衛生管理はドライシステム方式、温湿度管理、作業区域・作業動線の明確化を行い、厳しいものがある。伝統料理・郷土料理への対応ができ、試食会等を通し、家庭や地域とのコミュニケーションを大切にしている、とのことであった。

△委員長 高橋 清治

幼老複合施設の交流の現状と効果について

桑名市

平成16年10月20日(水)～21日(木)

【幼老複合施設の交流の現状と効果】

三重県桑名市にある社会福祉法人自立共生会「ひかりの里」では、グループホームに住む痴呆性高齢者と学童保育の児童との組み合わせが各々の力を引き出し、相乗効果を生み出している。「ひかりの里」は3階建てで、1階部分に放課後児童クラブを併設している。少人数のお年寄りや少人数の子どもを同一の職員でケアし、なじみの関係が生まれることにより、3世代擬似家族として各世代がそれぞれの能力を活かして助け合い、刺激合ってケアや子育てに相乗効果が生まれているとのことであった。

【地域病児ケアシステム】

子どもたちの突然の病気にもかかわらず、職場などの諸事情で子どもについてあげることができないとき、安心して預けられる所がないだろうかというところでスタートしたのが病児保育である。

病児保育室は、ウエルネス医療クリニックに併設されたファミリーサポート館の2階にあり、急性期感染症児の受け入れにもすぐに対応できるように、感染症児専用の隔離保育室も含め3部屋の保育室を有している。

ここでは来院した病気の子どもたちを診察の上、医師・看護師・保育士の連携で預かり、検温・投薬などの病態管理を行い、またうがい・排泄・手洗いなどの衛生教育も行っている。

△委員長 田辺 良彦

社会常任委員会

子どもも来ていた。1階では自分たちで「お化け屋敷」をつくっており、私たちが招いてくれた。2・3階では子どもたちとお年寄りが職員の力をかりながら一緒にホットケーキを焼いているところであった。

こうした交流を通して、スタッフの言うことを聞かない子ども

屋上緑化の取り組みについて

西宮市

岡崎市

平成16年10月14日(木)～15日(金)

【西宮市】

兵庫県条例では1000㎡以上の建物を建築する際には屋上緑化(壁面を含む)が義務づけられており(東京都と同様)、ヒートアイランド現象の抑止のための対策を講じることになっている。

【岡崎市】

岡崎市の屋上緑化補助制度は、緑豊かで良好な生活環境づくりを図るため平成3年に創設された補助制度であり、屋上緑化及び壁面緑化に対し施工費用の一部の補助を行うもの。樹種・景観等については一定の制限を受けるが、比較的簡単に申請することができる仕組みになっている。

環境建設常任委員会

今回の視察では、新たに台風や強風の影響による土砂の飛散及び緑化部分の剥離、倒木などの課題があることがわかった。また、化学肥料の流出による環境への影響も心配され、肥料の選択と適切な管理の必要性も課題の一つとされていた。

緑化効果の一例として、案内いただいた庁舎屋上での実証実験では、屋上の表面温度が緑化

△委員長 小安 勝